

畑作等除草剤 芝生・緑地管理の除草剤

クロロIPC「石原」



除草剤分類

23

農林水産省登録	第7693号
有効成分	IPC（化管法1種）・・・・・・・・・・ 45.8%
その他化管法該当成分	ナフタレン（1種）3.6%（2.0～6.0%） トリメチルベンゼン（1種）1.7%（0.4～4.0%）
性状	黄褐色透明可乳化油状液体
人畜毒性	普通物（毒劇物に該当しないものを指している通称）
危険物	第4類第2石油類
有効年限	5年
包装	300mL × 20本

特長

✓ 冬の畑地に発生するスズメノテッポウやスズメノカタビラ等のイネ科雑草、ハコベ、ノミノフスマ、タネツケバナ、ミチヤナギ、タデ類等に有効です。

✓ 雑草の発芽前から発生始期までの土壌処理で高い効果を示します。

✓ 非ホルモン型移行性除草剤です。雑草の根部および幼芽部から吸収され生長点に作用し、雑草を枯死させます。

✓ 秋から春にかけての気温が20℃以下の時期に高い効果を示します。

適用作物と使用方法

作物名	適用雑草名	使用時期	10アール当り使用量		本剤の使用回数	使用方法	IPCを含む農薬の 総使用回数
			薬量	希釈水量			
麦類	一年生雑草	は種直後または2 ～3葉期	100～150ml	70～100ℓ	1回	全面土壌散布	1回
たまねぎ		定植活着後または 中耕後 但し、収穫30日前 まで	200～300ml		2回以内		2回以内
てんさい あずき アスパラガス(苗 床)		は種直後			1回		1回
アスパラガス(定 植畑)		培土後雑草発生前 但し、収穫30日前 まで	250～300ml				
ほうれんそう		は種直後	100～200ml				
いちご		定植活着後 但し、定植7日後 まで	150～200ml			株間土壌散布	
いんげんまめ		は種直後	500～900ml			全面土壌散布	
		は種後5～15日 (発芽前)	500～600ml				
にんじん		は種直後	300～600ml				
ごぼう			200～500ml				
キャベツ		定植後 但し、収穫60日前 まで	150～300ml			株間土壌散布	
だいず		は種後発芽前	200～300ml			全面土壌散布	
レタス 非結球レタス		定植活着後 但し、収穫60日前 まで	300～500ml		株間土壌散布		
そらまめ		中耕培土後 但し、収穫90日前 まで	200ml		全面土壌散布		
未成熟そらまめ		中耕培土後 但し、収穫60日前 まで					
チューリップ		植付後				300ml	株間土壌散布
日本芝(こうらい しば、ひめこうら いしば)	雑草発生前～発生 始期(秋期～春 期)	400～600ml	200～300ℓ	2回以内	全面散布	2回以内	

※本内容は2020年4月8日付の登録内容に基づいています。

効果・薬害等の注意事項

一般的注意事項

- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 高温時には除草効果が十分得られないので、気温が20℃以下の時期に使用してください。
- 成長した雑草に対してはほとんど効果が認められないので、は種または植付直後、中耕施肥直後などの雑草発芽前後、または稚幼期に土壤散布してください。
- 洪積土壌では薬害が出にくいですが、沖積土壌では作物に影響を与えやすいので、使用に当たっては土質に十分注意してください。なお、砂質土壌では使用をさけてください。
- 散布後、中耕・培土・土入れなどにより土壌上層を移すと、雑草の種子が下部より出て発芽し、効果が減ることがあるので注意してください。
- 過乾の場合は効果が顕著でなく、逆に過湿の場合は薬害が生じやすいので、できるだけ雨天をさけ散布してください。雨天の場合は、降雨後、土壤水分が適湿の状態となってから散布してください。散布後、はげしい降雨が予想される場合は、薬害が生じるので使用をさけてください。
- 薬害を回避するために必ず2~3cmの厚さに覆土を施し、よく砕土、鎮圧してから散布してください。堆肥のみの覆土の場合は使用しないでください。
- 著しく低温の場合には、製品中に一部原体が結晶析出することがありますが、その場合でも溶かせば効果は変わりませんので、ビンのままぬるま湯に浸して十分溶かした後、よく振ってからご使用ください。
- 広葉作物の除草に使用する場合、薬液が作物の茎葉にかからないように圧力を下げて散布してください。
- 使用した器具類は、使用後できるだけ早く水または石けん水で洗っておき、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意してください。
- 使用に当たっては土壤条件、気象状況ならびに発生する雑草の相違から効果および作物への影響も異なるので、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には病害虫防除所等関係機関の指導を受けるようにしてください。

作物別注意事項

麦に使用する場合

- 催芽まきの場合は、散布しないでください。
- 晩播で越冬まで5葉に達する見込みのない場合は、散布しないでください。

レタスに使用する場合

- 特に処理時の温度に影響されるので、適用対象地帯は東日本ならびに山間高冷地です。

ごぼうに使用する場合

- べたがけおよびマルチ栽培では薬害が生じるので使用しないでください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、春播き栽培では薬量200~300mL/10a、晩春播き栽培では薬量200~400mL/10aで使用してください。

にんじんに使用する場合

- アカザ・キク科雑草の優占する圃場では効果が劣るので、有効な薬剤との組み合わせで防除してください。
- 低温時に高薬量で使用すると薬害を生じるので、冬播き、春播きおよび晩春播き栽培では薬量300mL/10aで使用してください。

安全使用上の注意事項

- 誤飲などのないよう注意してください。
- 眼に対して刺激性があるので、眼に入らないように注意してください。眼に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当を受けてください。使用後は洗眼してください。
- 皮膚に対して刺激性があるので、散布の際は手袋、長ズボン・長袖の作業衣を着用し、皮膚に付着しないように注意してください。付着した場合は直ちに石けんでよく洗い落としてください。
- かぶれやすい体質の人は取扱いに十分注意してください。
- 蚕に対して影響があるので、周辺の桑葉にかからないようにしてください。
- 公園で使用する場合は、散布中および散布後（少なくとも散布当日）に小児や散布に関係のない者が散布区域に立ち入らないよう縄囲いや立て札を立てるなど配慮し、人畜等に被害を及ぼさないよう注意を払ってください。
- 自動車、壁などの塗装面、大理石、御影石に散布液がかかると変色するおそれがあるので、散布液がかからないよう注意してください。
- 危険物第四類第二石油類に属するので、火気には十分注意してください。

魚毒性等

この登録に係る使用方法では問題ありません。

保管

密栓し、火気や直射日光を避け、食品と区別して冷涼・乾燥した所に保管してください。種子、苗、肥料または他の農業等と隔離してください。